

大阪・船場、
くすりの町の落語会

道修町

たなみん寄席

たなみん

第2回「大阪人につける薬」

正統派からちよつとアヤしいものまで、
大阪人と「薬」のつながりを、落語を楽しみながらひも解きます。

落語



桂春之輔
「まめだ」



桂米紫
「イモリの黒焼き」

講演



高島幸次
(大阪大学招聘教授・
大阪天満宮文化研究所)
「千と千尋の黒焼き」

神農祭にちなんだ
落語会だよ



11/23 (祝・木)

6:00PM~

入場料 1,000円(資料代込み)

定員 200名(要申込・先着順)



田辺三菱製薬



大阪・船場、くすりの町の落語会

道修町たなみん寄席

「たなみん」って？

ふわふわで真っ白な毛に覆われた、大きな青い手を持つ妖精。その手でどんな相手でもぎゅっと受け止め、包み込む。

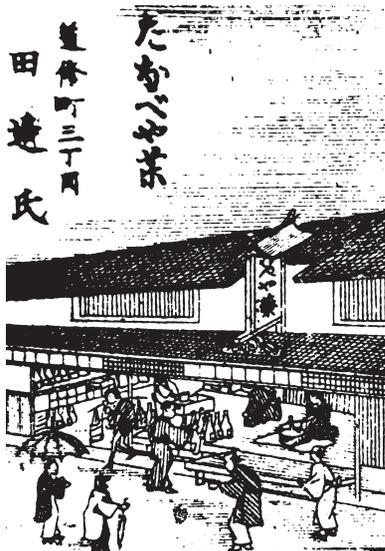
ハグされたものはその心地よさにひとたび眠りにつき、起きたときには病が治っている、こともあるとか。田辺三菱製薬のキャラクターとして活躍中！

落語に登場する あんな薬やこんな秘薬。 大阪の人たちと 「薬」のつながりとは？

道修町の少彦名神社は、薬の神さまとして知られています。毎年11月22日・23日の神農祭も大にぎわい。今回のたなみん寄席では、それにちなんで、大阪の人たちがどのように薬と関わってきたのかを、落語を交えてご紹介します。

くすりの町・道修町の歴史もさることながら、上方落語にはさまざまな薬が登場します。中にはちょっとアヤシげなものも…。はたして落語に出てくるうっかり者に、つける薬はあるのでしょうか。

背景写真について



浪花諸商独案内

明治12年(1879)に発行された、大阪の商いや有名な店を紹介した本の中に「たなみん」が描かれています。店先には瓶のようなものがあり、配達に出かけるのか荷物を肩に掛けた人物も。十一代田邊屋五兵衛が、現在本社がある道修町3丁目に店を構えたのは、安政2年(1855)のこと。店舗の大きさは表間口が4間半(約9m)、奥行は20間1尺(約37m)あり、当時としては立派な店構えでした。

第2回「大阪人につける薬」

桂春之輔「まめだ」 桂米紫「イモリの黒焼き」 高島幸次(講演)「千と千尋の黒焼き」

日時 2017年11月23日(祝・木) 6:00PM~8:00PM頃(受付開始5:00PM~)

会場 田辺三菱製薬株式会社

入場料 1,000円(資料代込み) 定員 200名(要申込・先着順) ※定員に達し次第締め切ります。

ハガキ、FAX、もしくはインターネットの申し込みフォームからお申し込みください。

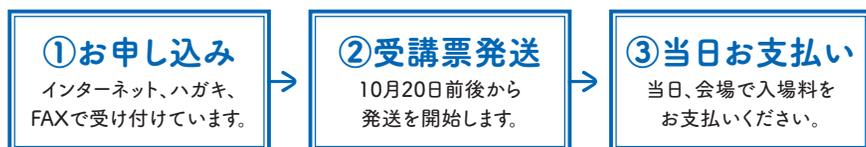
ハガキ、FAXでお申し込みの方は、お名前・ご住所・電話番号・参加人数(応募1通につき4名まで)を明記の上、下記までお送りください。

なお、複数名でご参加希望の場合は、代表者の方の必要事項を明記してください。

〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号 「道修町たなみん寄席」受付係 FAX.06-6484-9678

<https://www.tanamin-yose.net>

◎ご参加までの流れ



お申し込み先着順に整理番号を発行し、当日はその番号順にご入場いただけます。整理番号は受講票に記載していますので、必ずご持参ください。

※受付開始時間より前にお越しいただいても、早く入場できるわけではありません。

お問い合わせ ☎06-6484-9677

(道修町たなみん寄席事務局・株式会社140B内)

主催/田辺三菱製薬株式会社 企画・運営/株式会社140B



道修町の歴史がよくわかる
田辺三菱製薬史料館を
見学いただけます。

